

八重山沿岸海域における資源管理

八重山農林水産振興センター 牧野清人

1. 目的

八重山沿岸海域における急激な魚類資源の減少をくい止めることを目的とし、2008年度より八重山漁業協同組合資源管理推進委員会を中心に、重要対象種の主産卵場5海域において、主産卵期の4月～6月を禁漁とする取組が実施されている。また、特定の産卵場に集群を形成し、短期間で産卵することが知られているナミハタについて、産卵場の一部において期間禁漁の取組がなされている。こうした取組に対し、普及指導の面から支援した。

2. 材料及び方法

23年度資源管理推進委員会において決定した活動方針に基づき、3月下旬に、5ヶ所の保護区において1地区7～8の境界ブイを設置し、漁業者はこの電池交換を行うとともに監視活動を実施した。また、産卵保護区実施に関するポスターやチラシによる周知を行っており、普及指導員もこれに協力した。同監視活動は6月末まで行われ、その後ブイを撤去した。

ナミハタの資源管理については水産海洋研究センター石垣支所ならびに西海区水産研究所石垣支所の調査結果により積算水温を元に、5月9日～14日を漁獲規制期間とした。この期間中、ヨナラ水道南側の14箇所の定点にブイを設置し、漁業者による電池交換ならびに監視活動が実施された。

3. 結果及び考察

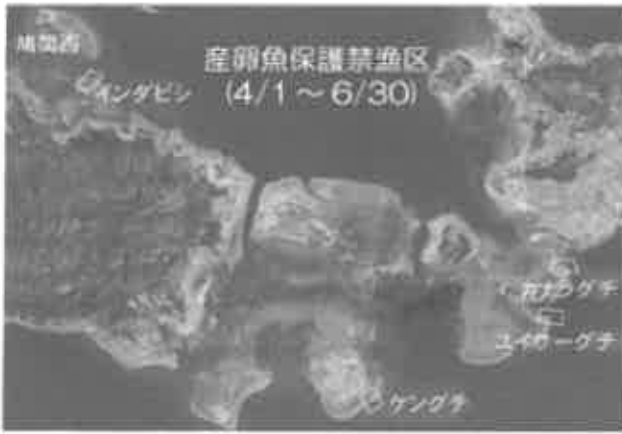
既存の5箇所の禁漁区における資源管理において、禁漁期間中の操業はみられず、漁業者とダイビング、遊魚船等とのトラブルも発生しなかったことから、周知活動が効果的であったこ

とが伺える。しかし、一部でブイの点滅灯等が盗難に遭う等の被害も発生した。また、保護効果について結果を求める声や禁漁区域での漁業を再開したいとの意見や、漁業が集中している他の海域にも禁漁区を設置してはどうかとの意見が強かったことから、次年度以降の資源管理について、新たに竹富島北西、西表西の海域に2カ所設けることとなった。

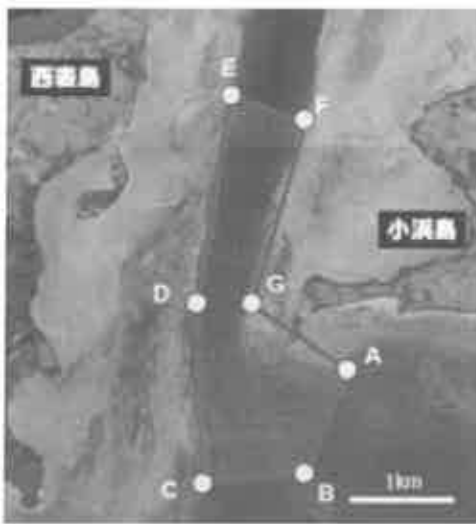
ナミハタの資源管理については、石垣支所等の調査により、禁漁時期に産卵集群が確認され、抱卵個体が多くみられた。資源管理区域における調査には潜水器漁業を行う漁業者が同行しており、産卵集群の状態について資源保護の効果について実際に目にさせていただく形で示すことができたものと思われる。



八重山漁協資源管理推進委員会での検討会



重要対象魚の禁漁区



ナミハタの禁漁区



ナミハタ禁漁区境界ブイ設置作業



ナミハタ資源保護についての協力依頼
ポスター



禁漁期間中に水揚げされたナミハタ
(禁漁区とは別の漁場)